杉並区立和田中学　いくつかの疑問

都議会議員　土屋たかゆき・馬場裕子

学校本来の使命について

【公立学校本来の使命を逸脱しているとんでもない企画が今、行われようとしている。明らかに“教育の機会均等を奪うものだ】

①公立学校には本来、「普遍的な教育を満遍なく行う」と言った使命がある。それが校訓があり、教育方針があり、教育の方法が多様化している私立との違いでもある。
②従って、今回の杉並区立和田中学の「夜スペシャル」と称する地域本部が主催する、学校施設を利用し、特定の生徒の成績向上を学外の大手私塾「サッピックス」講師を招聘して実施する授業は学校本来の使命に明確に反するものである。

私塾の学校への参入について

【サッピックスの経営戦略にまんまと乗った愚策。法的根拠のない（区教委のはなし）地域本部で実施と言い逃れ】

①区教委の説明によれば、地域本部が主催をするというが文部科学省の想定している学校運営協議会制度には、民間企業である塾講師を生徒達の「補習」などに当てることは想定していない。それは、文部科学省発行の「新学校宣言！コミュニティースクール」でも明らかである。
②区教委の説明によれば、昨年11月にサッピックスから区内全中学宛にダイレクトメールが発送されたことに始まる。新聞の報道によれば藤原校長はダイレクトメールを受け「すぐにサッピックスに電話をした」らしい。そこで、夜間授業をすることも相手側に飲ませたと言っている。
③すぐに電話をしたと言うとなれば、地域本部に事前に諮ったかどうか不明だ。区教委の資料によれば、地域本部は11月上旬から中旬にかけて和田中から相談を受けたとなっているから、校長がインタビューに答えている通り、「夜間開講」まで電話交渉で実施、それを地域本部に報告、了承を得たことになる。しかしながら、正式な機関である「学校運営協議会」には諮ったと報告にはない。

コミュニティースクールの働きとしては、文部科学省パンフレット紹介のように、保護者、地域の皆さんの意見を集約して地域に開かれた学校づくりをしようと言うものである。私塾を学校に導入することなど全くの想定外のことだ。
更に、区教委の見解では、この地域本部は法的根拠のない任意団体に過ぎない。その任意団体が校長の意見を採択したからと言って、区教委が現行学校制度を大きく揺るがすこの構想に何の疑義も差し挟まないことに重大な問題があるし、それを了承したことは、現在、私たちが指摘し、都教委が指摘している数々の問題について即時回答出来ない、つまり、この問題の疑問点を十分検証せずに了承したことの証左でもある。
④更に塾側の戦略を全く考えていない。
現在、生徒数は減少しているが、逆に塾は増加の傾向にある。大手学習塾も規模を縮小して小さな教室を数多く作るとか、全くの個人授業を行うなど、その塾独特の努力をしている。
以前と、現在の違いは、生徒集めにある。従前は、ダイレクトメール、新聞折込、生徒からの紹介などが生徒集めの柱であった。ところが、個人情報保護の観点から、学校ではクラス名簿を作らず、名簿屋からも名簿を購入しにくくなっている。更に新聞折込の効果は以前の数十分の一となっている。となると、生徒の紹介、保護者の口コミが塾の命となる。
特にサピックスのような大手塾にとっては、教室規模が大きいことから生徒集めが最大のの課題だ。更に、生徒の通塾開始時期が、全般的に遅くなっている。理由は、学校を選ばなければ大方の生徒は進学出来ると言うこと、また、二学期制になって、自分の成績のチェックをする機会が減少したことによる。
以上のことを総合すると、塾の判断として今までのように「教室で生徒を待っていては益々生徒は減るばかり」と言うことになる。
サピックスは、新たな戦略として、学校での「補習授業」を企画したと推定出来る。確かにここで得られる収入は微々たるものであるが、先日のNHKニュースのインタビューに答えた保護者のように「あの有名なサッピックスに行けるなんて・・・」「便利だし」と塾の戦略を知らずにストレートに賛成してしまう例が多い。これは当然のことで、サッピックスはこうした反応まで読み込んでこの戦略を展開しているのだ。
サピックスにとって、新聞・テレビが取り上げ、「公立中学で補習をするサッピックス」と言う知名度は抜群に上がった。数十億円の広報宣伝費をかけたとおなじだ。となると、ここで赤字であっても、本体の教室は地域から相当数の生徒を集約出来ることになる。
その戦略を考えずして、安直に塾の勧誘に乗ったことは重要な問題がある。
仮に、この構想を承認するようなことがあれば、全国の中学で同じような塾か

らの働きかけがある。となると、学校の教師の威信は低下し、学校は崩壊に向かう。成績格差も更に大きくなることになる。学校の教師は塾教師と切磋琢磨すれば良いとの意見があるが、本来学校の授業のあり方と、塾の授業のあり方は対立する部分が多い。学校には学校の良さがあり、塾には塾の良さがあるはずで、更に、塾には塾別の授業の特徴があり、生徒達は自主的に自分にあった塾を選択している。成績上位者だからと言って、サッピックスの授業が良いと思うのは短絡である。

私塾講師に授業を任せることについて

【私塾に生徒を任せることは、学校否定につながると言う発想が全くない。これが全国に広がれば、塾による学校支配が確立する・・常識ではないか】

①当然、サピックスは選りすぐった講師を派遣して来るに違いない。しかし、塾の講師には教員免許は不要である。地域本部が主催と形式はそうなっているが、区教委の回答の通り「基本は学力向上と受験対策」だそうだ。いくら課外授業と言っても学校の中で実施する授業に無資格者を入れて良いものか。
更に、区教委の回答によれば、教材も学校の教師と塾講師が共同してつくる。教材をつくるとなれば、その講座を利用する生徒の成績レベルを考慮しなければならない。学校からは成績を一切公表しないと言っているが、それでは効果的な教材を作ることが出来ないし、サッピックスが実施するテストの処理はサッピックスが責任を持って行うから大丈夫だと言っている。誰が大丈夫なのか知らないが、塾としては学校の先生の問題作成傾向、生徒の成績を客観的に知ることが出来る。
これは重要なことで、どこの塾でも中間・期末のテストを各学校から入手、その分析を行って、中間試験前の指導などに使っている。学校の教師と塾の講師の交流が深ければ深いほど、そうした情報が外に流れないと言う保証はない。
そもそも、塾講師は、資格が要らない。更に様々な経歴を持っている。それが良い場合も、悪い場合もある。
都教委の説明だと、塾講師の経歴については掌握されないことになっている。今、都内の中学、高校で教師の不祥事が毎日のように起きている。その報告は文教関係の議員に配布されるが驚くべき数である。私塾にしても不祥事がある。こちらは、管轄する役所がないから、各塾で処分しているのだろうが、こうした事実を把握しているのか。

②共同で教材をつくることに関して以下の問題点がある。
第一に兼業兼職の問題をクリアーしていないと言うことだ。区教委の報告によれば、「両者の打ち合わせは、教師にとっても学ぶべき内容が含まれているものであれば」問題はない。報酬の受け渡しはないと言い切っている。
しかしながら、打ち合わせをすると言う時間を教師は用意しなければならない。勤務に関する残業となれば、それなりの報酬が支払われるが、これはボランティアのようなもの。ボランティアとなれば、当然、教師は「断ることが出来る」権利を持つ。強制力を持ったボランティアなど聞いたことがない。
更に、作られた教材の著作権はサッピックスが持つと言う。驚天動地ではないか。
塾はこの「教師と共に作った教材」を塾で活用する。我が塾は、和田中教師とこのテキストを作りましたと宣伝してもいいし、表紙に編纂：和田中・サッピックスと印刷も出来る。
いくら学校の教師がボランティアとして共同で教材を作っても、作った後は向こうの好きなままに使用される。ひょっとするすると有料でサッピックスの生徒に販売されるかも知れない。つまり、教師は間接的にサッピックスの営業に参加させられたことになる。
③生徒との連絡はどうする
塾では、例えば5時に授業が開始するとする。生徒が塾によるが、5分以上経って来塾しない場合、事務員が生徒の自宅に電話連絡をする。また、授業が延長になる場合もあるが、その場合も「〇〇の理由でお子さんは〇時〇分　塾を出ました」とやはり電話連絡する。
生徒の安全管理は塾の責任であるから、当然塾長は生徒が帰宅するであろう時間まで塾で待機してから帰宅をする。これは常識だ。ところが、今回の夜スペシャルのように、教室に電話がない場合はどう連絡をするのか。
いちいち教員室には行っていられまい。第一、塾講師が誰もいない教員室に入ること自体問題だ。
となると、携帯電話での連絡をせざるを得ない。塾では、講師の携帯に生徒の電話、アドレスを入れることを禁じている。事故を防ぐためだ。
仮に講師の携帯に電話番号を入れるとなれば、ナンバーディスプレーを備えた家では用意に講師の電話番号を知ることが出来る。
学校の教師とは年数回しか会わない。一方で塾講師からは連絡が入る。教え方も塾講師は生徒を引けつけるコツ、授業の進め方。ここは覚えるところ、ここはいいとメリハリのついた授業をする。だから、塾の講師は人気が出る。お兄さんのようなお姉さんのような講師に魅了もされる。保護者も同じ。
となると、「家の子の成績のことですか・・・」と電話が講師にかかる。「学校

では出来ません」と応えるだろう。となれば「塾で・・」と言うことになり、進路指導、教務指導が塾に移行する。
これを防ぐ代案として「教室に携帯を備える」と言う方法を地域本部などは考えるだろう。ところが、これも同じ。授業の終わった後に電話をする。授業の合間に電話をすればこと足れりだ。
生徒の地域のボランティアが送ると区教委は答えているが、年に一二度ある行事ではない。
変質者の増加、誘拐が頻発していることを当局は無視をしている。

学校の安定的運営について
①学校と塾との違いについては、前述した通りであるが、繰り返せば塾講師は子供たちの気持をしっかり掴むこつを持っている。特に大手サッピックスが今回派遣して来る講師は寄りぬきの講師であることに間違いはない。
一こま 45 分の授業だから、その教科の肝心な部分、捨ててしまってもいい部分を分けて指導をする。補習だけならまだしも、偏差値を具体的に上げる授業をする、それも 45 分でするとなればそれしかテクニックとしてない。
従って、成績上位者には極めて有効な授業となる。
年齢も近い、お兄さん、お姉さんのような教師だ。
となると、学校の授業はどうなるか。学校の教師は、学習指導要領に基づいた授業を 40 人近い生徒に均一に行わなければならない。当然、成績中位を基準として授業を行う。
今回の試行は、成績上位者がターゲットだから、成績上位者は「学校の授業はつまらない」となる。クラスの雰囲気を形成する（牽引する）この層が授業がつまらないとなると、それはクラス全部に波及する。学校全体に「学校の教師より塾の講師！」と言う世論が蔓延する。生徒にも保護者にもだ。
本来、異質な塾（本来学校を否定している塾）を学校に入れた結果だ。
これが全国に波及すれば、学校は大混乱になること必定だ。
公立学校の教育は破綻する。
今、学校に必要なのは、「遅れている子供をどうするか」ではないか。藤原校長によれば、土曜に対策授業を OB だとか学生を使ってやっていると言う。
何故、教師に協力を仰がないか。
学校には学校管理者たる校長がいて、教師がいる。いろいろ学校の問題を協議する職員会議も存在する。それが学校の基本である。コミュニティースクールはそれにプラスして地域の英知を集め、地域の学校を作ろうと言うものだ。
そこでの主役は、教師と生徒ではないか。
学校に塾を入れるデメリットも説明せず、あれもこれも都教委に聞いても「課

題です」としか答えが返って来ず、更に、「これはあくまでも試行ですから」と言う説明では納得が出来ない。
学校は実験に場でも、私塾の宣伝の場ではない。また、民間校長と言えどもあらゆることが許される存在ではない。

不可解な校長の任命

【藤原校長の後任に“リクルート”後輩の代田氏が選ばれたと言う偶然を信じられるか】

和田中には、協力団体と言う組織がある。学校を側面から支援しようと言うものだが、そこに藤原校長の後輩である　代田明久氏がいる。“リクルート”の後輩だと言うことだ。今は別の会社の社長だが、藤原校長の縁があって、協力団体に入ったと憶測される。
今回、藤原校長の後任に選ばれたのは他でもない、この代田氏である。人事の問題であるから、地域本部ではなく「学校運営協議会」から、１、民間人校長の配置　２、代田氏を後継校長候補に推挙する意見具申が出された。この「学校運営協議会」は区教委の権限に関わる権限も有していることから、当然、議事録などがあるはずであるが、平成 20 年 1 月 16 日現在、都教育庁はそれを確認していない。怠慢である。つまり、一般的に名の知れた人物を候補者に選ぶならともかく、一協力者である代田氏を「学校運営協議会」が後継校長に選ぶと言うのは不自然極まりない。この協議会の委員長は、何故か藤原校長である。
都教育庁の見解によれば、「代田氏が学校運営協議会から推薦されたことは、藤原校長が推薦したことから推されたことと推測します」と言っている。
これが極普通の見解だ。
にも関わらず、教委は形式的な審査で都教委に上げた。都教委は詳細を知らないままにここでも形式的審査のみで、採用の承認をしている。
しかしながら、その選任の過程について、疑念がある場合、また、藤原校長が極めて超法規的な手法を駆使して上記のような企画を強行しようとしていることも勘案すれば、都教委はその権限を行使して、後任校長の採用認定を取り消し、校長選任のやり直しを命じるべきである。
藤原校長は、インタビューの中で、「3 月で校長は退任するが、学校運営協議会の会長としては残る。表には出ず、次に校長をサポートしていきたい」と述べている。後輩を校長に指名し、更に人事まで左右する協議会の会長としてサポートすると言うことは院政をひくと言ったことを通り越して、学校の私物化と断言出来る。

こうした改革と称する公立学校の破壊行為は先に述べた公立学校の本来の使命や、教育の機会均等を崩壊するものである。
確かに藤原校長はマスコミを多用し、学校世論の操作には長けているが、典型的な大衆先導型ポピュリズムに他ならない。
この事実を教師は自覚すべきであるし、保護者は気付くべきである。甘い汁のあるところには何かがある。実際サピックス中学部では「将来への投資として有効」と12月24日　毎日新聞　ではっきりと言っているではないか。
学校は塾の「新しい収入源」と化し、学校の崩壊は益々すすむことに間違いはない。
現役の教師はこの事態を前に奮起すべきではないか！